

建築家って、何する人？ —《シルバーハット》から考える

東 浩章

《シルバーハット》で毎日仕事をしていると、「これが家だったの？」という声をよく耳にします。《シルバーハット》は東京にあった伊東さんの自宅を、イベントや研究のための施設として、大三島に再生したものです。幾分か的设计変更はありますが、これはまぎれもなく「家」だったのです。《シルバーハット》は、多くの人が「家」と言った時に頭に浮かべるイメージと、かなり距離があるようです。伊東さんは何故このような「家」を設計し、住んでいたのでしょうか。少し考えてみたいと思います。

《シルバーハット》を訪れて最初に目に入るのはアーチ型の薄い屋根。7枚のヒラヒラとした屋根は空間のサイズによって変化しながら、中を包み込むように架けられています。次は穴のあいた半透明のアルミ外装材。そのスクリーンから中を見ると人が動いている様子や家具などがうつすらと見え隠れします。それらを見ながら、やけに軽い扉を開けて中に入ると、そこには気持ちよい風が通りぬけ、ほとんど外ににいるような感覚です。これが「家」なんですから驚きです。とにかく外に対してオープンで、住宅というよりも、人が気軽に集える公園のパーゴラやテントといった様相。実際に、《シルバーハット》が東京の中野に建っていた時は、様々な人が訪れ、イベントなどにも使われていたと聞きます。ここでは、「家は家族のためのもの」という常識や、私たちが大切にしているプライバシーといったものも改めて考え直してしまいます。このようなことを意図しているかどうかは実際には分かりませんが、優れた建築とは、ただ美しいだけでなく、今の社会やこれからの社会の在り方を問うような側面も必ず持ちあわせているものです。

少し話は変わりますが、日本も統計上2025年には、生産年齢人口(15〜64歳) ほぼ2人で1人の高齢者を支えるという時代が来るそうです。そうすると、私たちの今の暮らしは大きく見直さざるを得なくなりますが、「建築は社会の在り方を問うものだ」と言われると少し大上段に構え過ぎのような気がしますが、私たちがこれから、どのように家族と暮らし、どのように地域の中で人と付き合い、どのような「家」に住まうかを考える時、それは直接、建築を考えることにつながっているのだと思います。

建築家は、デザインの良い建物をつくるだけの人ではありません。今、社会はどうなっているのか、これからはどのような社会であって欲しいか、そのようなアイデアや思想を実際に空間に翻訳するのが建築家の役割の一つなのです。

伊東豊雄建築ミュージアムがオープン

7月30日、大三島町浦戸に「今治市伊東豊雄建築ミュージアム」(略称TIMA)がオープンしました。皆さんはもうお越しいただいたでしょうか。オープン直後の8月は、東京や大阪、海外などから、約2400人来館していただきました。各種メディアでも取り上げられ、全国的な注目を浴びています。

の建築作品の模型や、世界中から集まった被災地支援プロジェクト「みんなの家」のイメージスケッチなどが展示されています。もちろん建物自体も伊東さんの設計ですので、今までに経験したことのないような空間体験ができます。

石市瀬^{うのすまい}住居小学校の10名が参加し、伊東さんの案内でTIMAをめぐる、スケッチをしたり、ペーパーモデルを作ったりしました。トークセッションは、アーティストの日比野克彦さんをゲストに招き、伊東さんと今後のTIMAの方向を一緒に語っていただきました。その方向性の一つが「活動するミュージアム」。展示するだけでなく、イベントやワークショップなど、様々な活動を行って行きます。



瀬戸内海を背景にしたスティールハット



子ども建築ワークショップ



トークセッション

10月15日・11月5日(土)16:00～サタデーナイトミュージアム開催



会場のシルバーハット・ワークショップスペース

シルバーハットから見る夕日は本当にきれいですが、その一番美しい景色の時間には開館時間を過ぎてしまっています。そこで、開館時間を少し延長して、夕日を見ながら交流する「サタデーナイトミュージアム」を開催します。当日は、建築に関する短いお話の後、これからのTIMAについて気軽に意見交換が出来ればと思っています。折角作ったのだから使わないともったいない！皆さんの提案をもとに今後のTIMAの運営について考えていきたいと思っています。

日時 10月15日・11月5日(土) 16時〜
場所 シルバーハット ワークショップスペース
内容 第1部 16時〜17時
ミュージアムツアー(別途入館料必要)
第2部 17時〜日没

TIMA意見交換会(無料)
※どちらかの部だけの参加も可
前々日まで電話で申込み(月曜休館)
☎0897・74・7220

スタッフ紹介



ひがし ひろあき
東 浩章

7月末、大三島に引っ越してきました。今は宮浦に住んでいます。熊本生まれの横浜育ち。大学で建築を学んだ後、横浜のまちづくりNPOで2年勤務しましたが、大学の恩師が伊東豊雄建築設計事務所出身で、「ミュージアムで働かないか」と声をかけていただいたので、「これは面白そうだ」と思い、意気込んで大三島にやってきました。大三島は、不便なところもあるけれど、人が温かく、景色も美しく、すぐに好きになりました。将来は、伊東さんみたいなとは言いませんが、建築をつくり、論じることで生活していきたいと思って、目下勉強中です。大三島で何か面白いことが出来ればと考えているので、新しいことを始めたら、温かい目で見守っていただながら、色々教えてくださいたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

TIMA通信は、地元の方にもTIMAのことをもっと知ってほしいという思いでつくりました。TIMAは展示があるだけでなく、地域の方や外から来た方と一緒にまちや建築について考えたり、ついたり、そんな活動する「ミュージアム」として運営できたらと考えています。シルバーハットは無料なので近くを通った時は気軽に寄って、声をかけてください。